

---

# 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の 成果取りまとめの方針

---

令和7年7月31日

地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
全国事務局

# 目次

## (説明)

### 1. 事業概要

- ・実施内容
- ・本事業の背景と理論的枠組み

### 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### 3. 今後の成果取りまとめ方向性 (案)

## (意見交換)

- 現在捉えている成果に対して、重要だと感じた視点や不足している視点
- 今後の成果取りまとめの方向性について、各委員からご意見いただきたい。

## 実施内容

### ■ 地域循環共生圏づくりにおいて、留意すべき三原則

1. 地域が主体的に実施すること。
2. 多様な主体が協働して実施すること。
3. 環境・経済・社会を統合的に向上させる事業（ローカルSDGs事業）を生むこと。



### ■ 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業における実施内容

- ① 共生圏づくり（地域プラットフォーム（地域PF）の構築とローカルSDGs事業の創出）
- ② 共生圏づくりに対する支援の実践を通じて、共生圏づくりに取り組む人たちを支える中間支援体制の構築・強化及び、必要な要素の抽出。
- ③ 成果の取りまとめ（令和8年度中に一定の知見を取りまとめることを目標）



## 参考 第六次環境基本計画（令和6年5月）から抜粋

### 第2部 環境政策の具体的な展開

#### 第2章 重点戦略ごとの環境政策の展開

#### 3 環境・経済・社会の統合的向上の実践・実装の場としての地域づくり（P.86～）

##### (2) 地域循環共生圏を支える無形資産（人的資本・コミュニティ等）の充実

##### （地域循環共生圏創出を担う中間支援組織等の強化）

中間支援機能を持つ者が、地域の本質的なニーズを把握し、事業化の段階まで含めた伴走支援を行うことにより、環境問題と地域の課題の同時解決の実現可能性が高まるとともに、更なる取組の展開が期待される。既存の**中間支援組織が実践的に地域支援を行いながら**、伴走支援のノウハウを他の組織に展開すること等により、**中間支援機能を担える人材、組織の育成を行っていく。**

## 参考 第六次環境基本計画（令和6年5月）から抜粋

### 第2部 環境政策の具体的な展開

#### 第1章 重点分野ごとの環境政策の展開

#### 2 パートナーシップの充実・強化（P.52～）

持続可能な社会への変革は、あらゆる主体が参加し、適切に役割を分担しつつ、対等な立場で相互に協力し、地域の将来像と共通利益を確認・言語化し、地域のありたい姿の実現に向けて、それぞれの力を結集させていくこと、第一部で述べたとおり、「全員参加型」のパートナーシップの下、政府（国、地方公共団体等）、市場（企業等）、国民（市民社会、地域コミュニティを含む。）が、持続可能な社会を実現する方向で相互作用、すなわち共進化を目指すことが重要である。

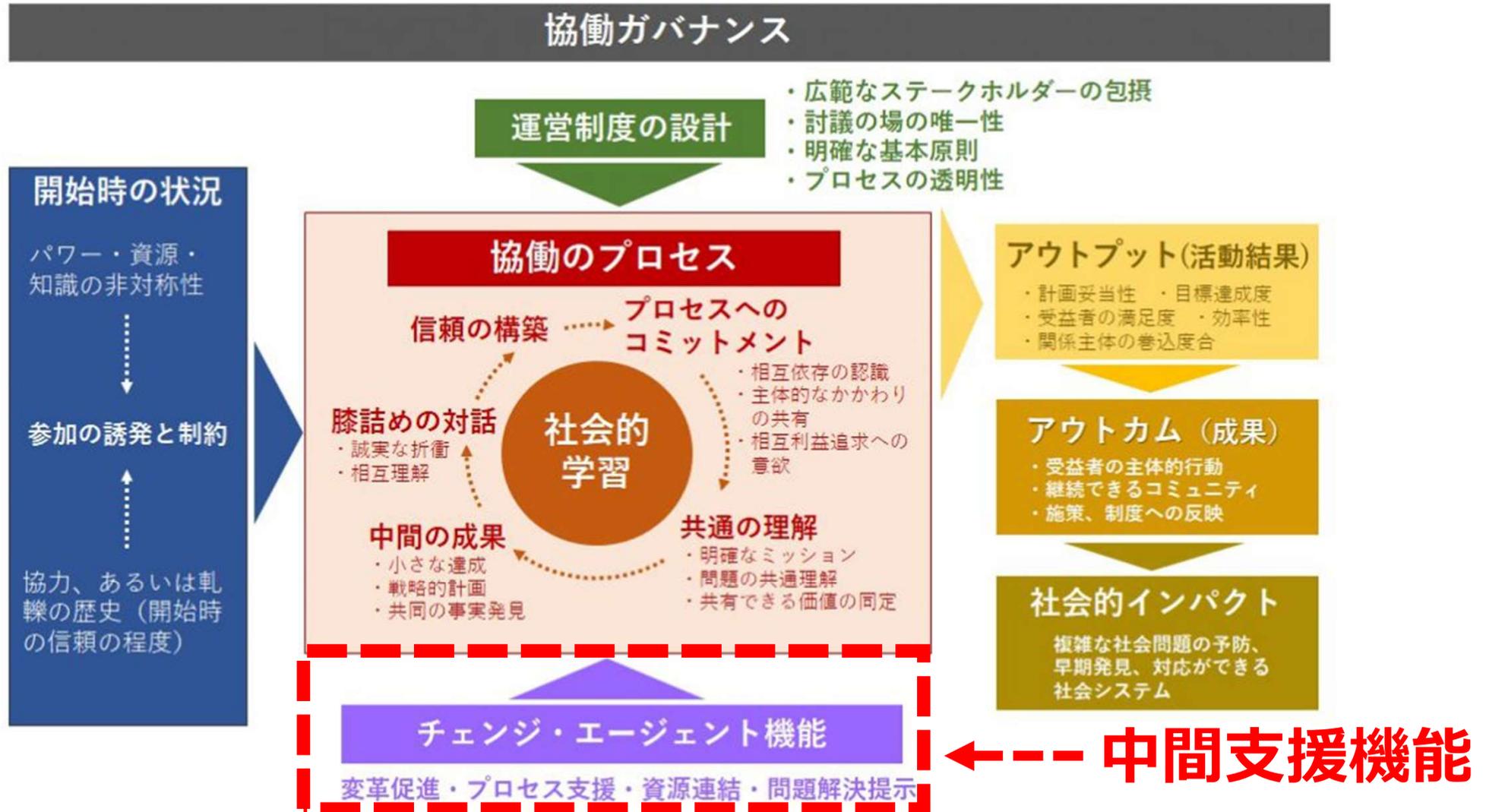
こうしたパートナーシップ（協働取組）において、対話に基づく信頼関係の構築や共通理解といった協働プロセスを通じて複眼的な視点を得ることは、関係者自身に変容をもたらし、地域やコミュニティの課題解決能力を強化させることにつながることから、**協働取組は課題解決の手段であり、地域やコミュニティの成長の源**といえる。このため、**協働取組の一連のプロセスをガバナンスの視点（協働ガバナンス<sup>124</sup>）**でとらえ、取組に関連する人的・物的資源や情報などを各主体に提供し、それぞれの主体が置かれた状況を整理しながら、対話の場を創造し、各主体の関心や意欲を呼び起こしながら、解決策の発見や目指すべき目標への進行を促すといった、**中間支援機能<sup>125</sup>を軸とする協働の仕組みを構築することが重要**である。

<sup>124</sup> 協働取組の過程において、一般的な事業進捗管理（プロジェクトマネジメント）だけでなく、プロセスにおける関係者の関わり方、関係性のつくり方、周辺環境の変化への対応、共有ルールの整備など、**関係者とともに進めていくための「仕組みとその運営（＝ガバナンス）」を重視する捉え方。**

<sup>125</sup> ヒト・モノ・カネ・情報をはじめとする**資源の連結**、関係者の納得度合いや先を見越したステップを確認して進行管理を支える**プロセス支援**、変革に向けて刺激を与え関心や意思を呼び起こす**変革促進**、本質的な解決策の発見を促す**問題解決提示**など、**協働取組を促進するために有効な機能。**

# 1. 事業概要 本事業の背景と理論的枠組み

## 参考 順応的協働ガバナンスとチェンジエージェント機能の連動性



※Ansell, C., & Gash, A. (2008), Havelock, R. G., & with Zlotolow, S.(1995)、佐藤・島岡 (2014) に基づき、共筆者作成

### 順応的協働ガバナンスとチェンジ・エージェント機能の連動性

(佐藤・広石 (2018) 『SDGs人材からソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ』、みくに出版)

# 1. 事業概要 本事業の背景と理論的枠組み

## 参考 チェンジ・エージェント機能（環境省、2018）

### 【変革促進】

多くの地域では、外部から見て明らかに何らかの変革が必要であると考えられるときでさえ、これまでの取り組み方から脱却できず、いたずらに時間を過ごし、課題が顕在化したときには打つ手がないことがある。従前の考え方や習慣を打ち払い、課題解決に向けた新しいプロセスを歩み始められるようにするためには、その地域やコミュニティに波紋を起こす役割が必要である。

### 【プロセス支援】

プロセス支援は、問題を発見し、課題を定義づけ、解決を進めるという、問題解決のあらゆるプロセスにおいて必要とされる。変革を進めていくために、様々な段階において立ち止まって考える機能である。プロセス支援では、調査等によって課題の本質やそれに伴う解決策を明確にしていくが、プロセス支援では、「他に考慮すべき事柄がないか」、「他に巻き込むべき人はいないか」といった問いかけを行う。[...] プロセス支援は、活動主体に取組を俯瞰することを促す。

### 【資源連結】

効果的な課題解決のためには、その必要性に応じて、人材や資金、課題設定や解決策に係る知識及び技術、変革のプロセスに係る専門性に至るまでのあらゆる資源を組み合わせることが求められる。しかもこの資源には、関わる人たちの時間やエネルギー、協働の意味も含まれる。資源連結は簡単なようでいて、とても重要な機能です。例えば、困難に直面したときに、他の類似した案件や専門的な知識を持つ有識者を探したり、時には関係者に対して「こうしたことに困っているが、誰か関心がある方はいないか」と、新たに参画を呼びかけたりする。活動主体をまとめあげ、事業の内外に存在する資源を見つけ、最もうまく活用されるよう変革を目指す活動促すのが資源連結の機能である。

### 【問題解決策提示】

主体の多くは、今度は「自分たちのアイディアは間違いない。他の人たちは協力してくれるとよいのに」と考えるようになる。しかし、そのアイディアが本当に実効性のある解決策とは限らず、また時に、活動主体の強い想いは問題の本質的な理解を阻んでしまうこともある。問題解決策提示とは、そうした状態を解きほぐす機能です。直接的に課題解決策を示すよりも、「アンケート調査やヒアリング等によって、関係者や住民の関心や要望を洗い出す」、「見出された関心や要望を関係づける」、「課題の本質につながる問いを探ることを促す」等によって、変革の可能性に対して関心をかきたて、本質に迫る解決策の発見を促す機能である。

## 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### (1) 成果の可視化のための作業概要

- ・2025年7月18日 (金) に作業部会を開催。
- ・各地方で団体に対して伴走支援をしている地方パートナーシップオフィス (EPO) の担当者が集まり、対面でのディスカッションを実施。
- ・ロジックモデルのアウトプットに照らし合わせながら、現時点で把握している取組の成果を整理。
- ・その際、事業の成果を体系的に整理するために佐藤真久先生にご協力いただいた。



### 【作業部会で成果を整理する際に援用したフレームワーク】

#### ●6つの資本

→アウトプット①ローカルSDGs事業を整理

#### ●チェンジ・エージェント機能の4つの機能

(変革促進・プロセス支援・資源連結・問題解決提示)

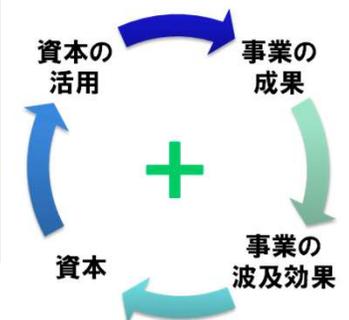
→アウトプット②の中間支援機能を整理

“持続可能性”とは、資本を総合的に豊かにしていけること

#### 統合報告の6つの資本

- ・ 財務資本
- ・ 製造資本(建造物、施設、工場など)
- ・ 人的資本(人々の能力、経験、意欲)
- ・ 知的資本(技術・ノウハウ、知恵)
- ・ 社会・関係資本(人のつながり・関係性)
- ・ 自然資本(自然、農作物、生態系)

資本を豊かにする  
ポジティブ・フィードバック



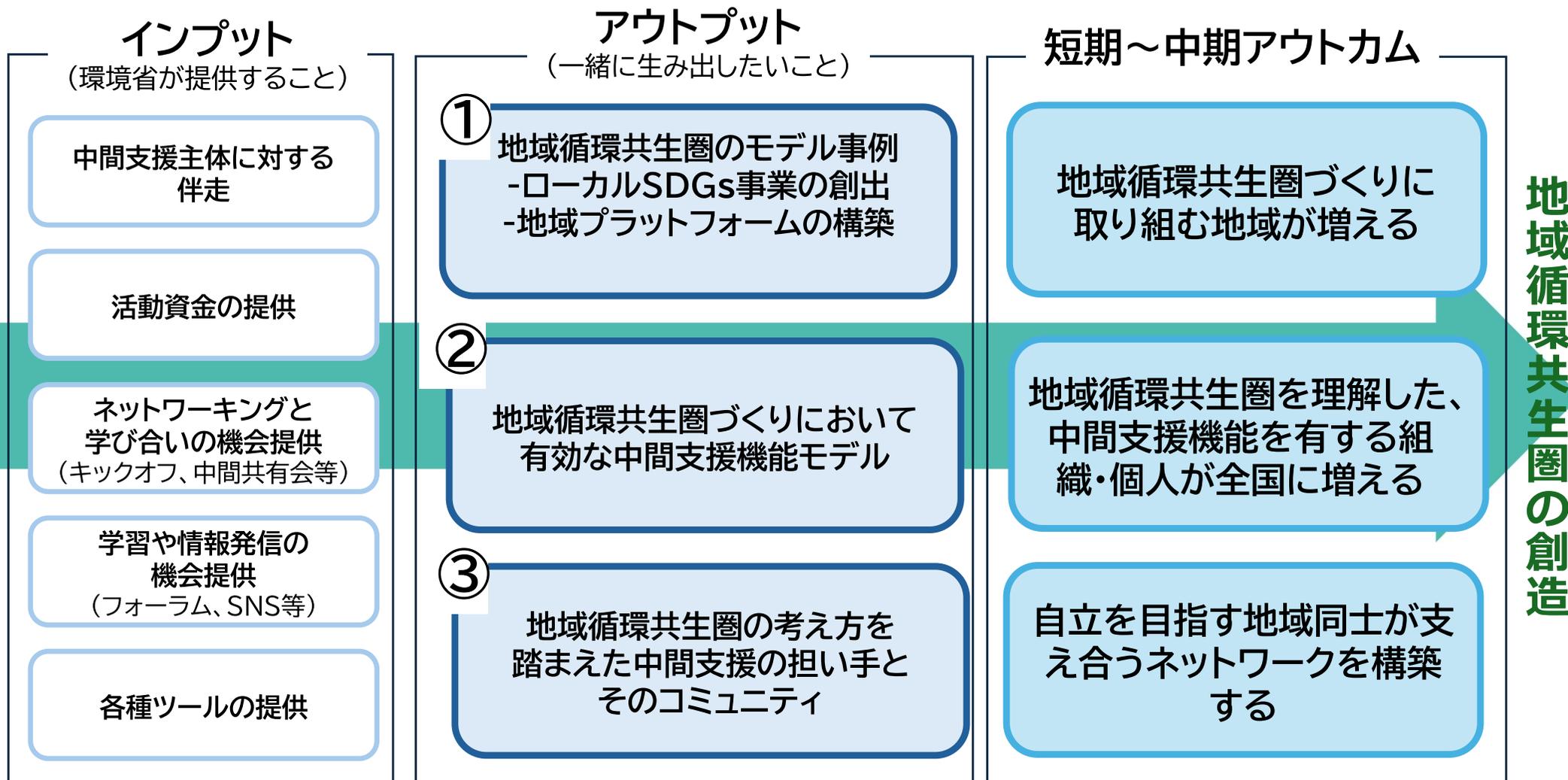
地域の持続可能性 - 資本統合と好循環

佐藤・広石 (2020) 『SDGs人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ』、みくに出版

## 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### (2) 本事業のロジックモデル

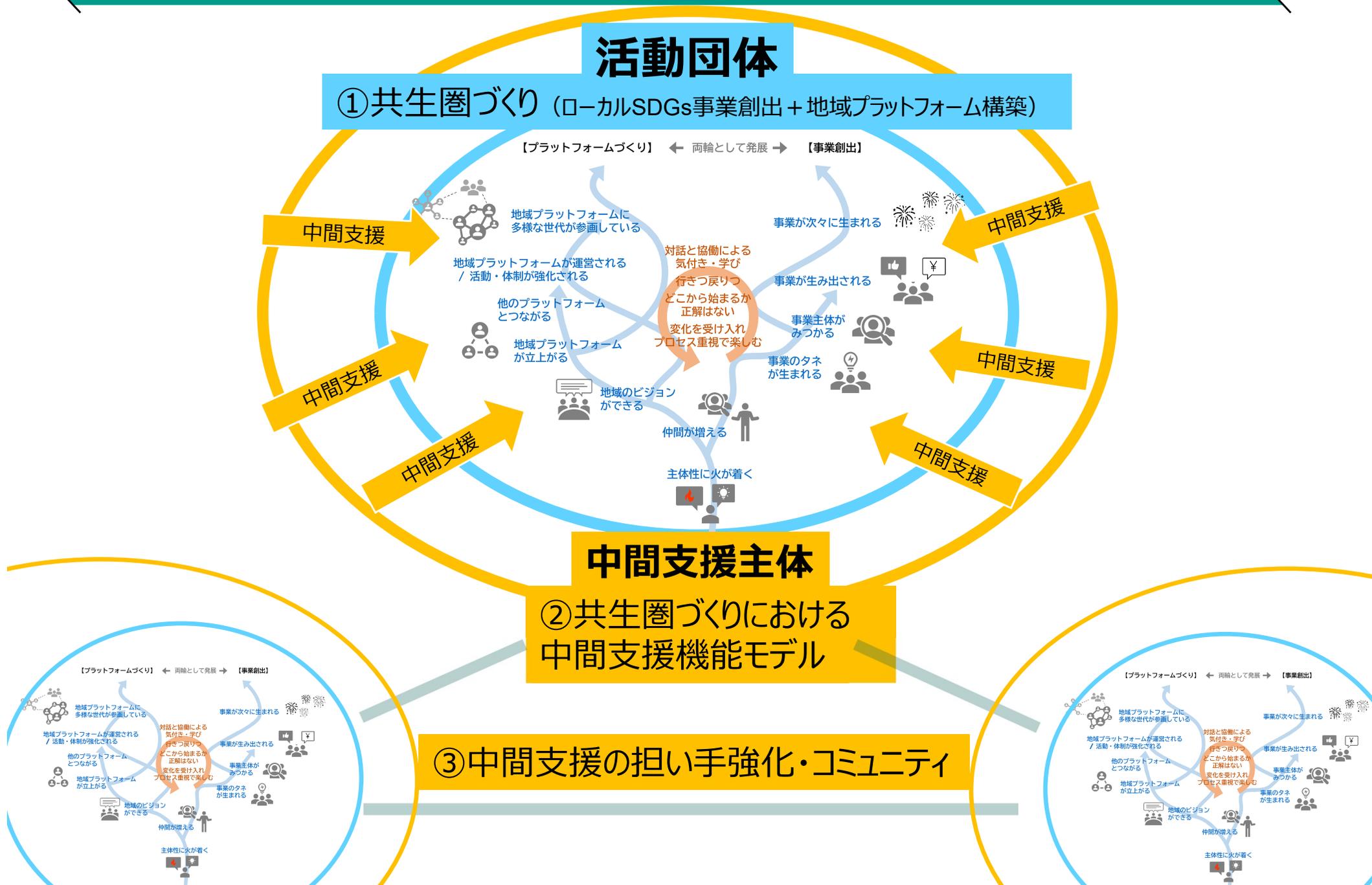
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業のロジックモデルに基づき、成果を整理



地域循環共生圏の創造

## 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### (3) 共生圏づくりのプロセスと ロジックモデルのアウトプット①～③との関係 (イメージ図)



## 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### アウトプット①

## 「共生圏づくり (ローカルSDGs事業創出)」に関する成果

- ◆地域の自然資本を活用した、事業が生まれている。
- ◆生まれた事業の水平展開や他の事業との連携の可能性が生まれている。
- ◆ローカルSDGs事業づくりを通して、地域の価値が再評価されている。
- ◆ローカルSDGs事業づくりを通して、地域における団体・取組の信頼度が向上した。

具体的な成果

### <商品開発・販売>

- ・杉ハーブティーの開発・販路拡大
- ・サステナブルツーリズムプログラムの開発

### <新たな組織の立ち上げ>

- ・地域新電力会社の立ち上げ

### <事業の展開>

- ・製炭事業の水平展開
- ・他の事業でのコラボ

気づき

### <地域の価値の再評価>

- ・地元の歴史・文化の再評価
- ・地域の自然の価値の認識

周囲の変化

### <地域における信頼度向上>

- ・新たな拠点の運営を行政から任されるようになった

### <組織内の連携促進>

- ・他部署連携による企画創出

## 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### アウトプット①

## 「共生圏づくり (地域プラットフォーム構築)」に関する成果

- ◆ 地域の状況に合わせた形で、地域プラットフォームが生まれている。
- ◆ 地域プラットフォームには、**交流の場、発見・学びの場、事業を生み出す場**としての機能があることが確認された。
- ◆ **「場」をどのようにデザインするか**が重要である。場のデザインを考える際に、中間支援機能が発揮されている。

具体的な成果・PFの機能

### <交流と認知の場>

- ・共生圏に関する対話、交流の場  
例) ワクワクとよみ未来会議 (地域の方が子供たちの未来をみんなで考える場。)
- ・有機農業に関する関心を広げる場

### <事業を生み出す場>

- ・対話の中から事業のタネを生み出す場  
例) coffee house (地域の拠点を活用し、定期的に対話の場を開催)
- ・ローカルSDGs 事業の仕組みづくりに取り組む場

### <発見の場>

- ・個人と地域の思いの言語化する場
- ・自分たちの課題を振り返り、弱みに気づく場

デザイン

### <場のデザイン>

- ・地域ニーズにあわせた場のデザインの検討

学習・変化

### <学びの場>

- ・情報共有、連携による視野の広がり

## 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### アウトプット②

## 「共生圏づくりにおける中間支援機能モデル」に関する成果

- ◆ 活動団体の取組に寄り添いながら、**俯瞰した立場で中間支援主体がプロセスを支援した**ことで、地域において共生圏づくりが進んだ。
- ◆ 共生圏づくりを推進するために、**場づくりや地域内外との資源連結**などの中間支援機能が発揮されている。
- ◆ 継続的な中間支援により、団体の**意識・行動が変化**した。

### <変革促進 (場づくり) >

- ・地域の多様なステークホルダーをつなぐ場づくりを支援
- ・対話の場、地域のことを考える場づくりを支援  
例) 地域ならではの地域循環共生圏の実現に向けたビジョンの提示と活動の引き上げ

### <資源連結>

- ・活動団体が持っていない人的資本との接続  
例) 若者の継続的な地域投入)
- ・地域内、外との連結

### <問題解決提示>

- ・代替案や新たな選択肢の提示  
例) 地域課題と環境課題と経済性を統合した解決案が提示され実行された
- ・活動団体の強み・弱みの明確化

### <プロセス支援>

- ・粘り強く関係性を持ち続け、事業の方向性を整理
- ・ビジョンを具体的な事業計画に落とし込む際の壁打ち

### <意識・行動の変化>

#### 【活動団体】

- ・事業の進め方に対する疑問を投げかけられたことにより、事業・活動が変容した

#### 【中間支援主体】

- ・行政としての中間支援機能とは何かを考え、積極的に業務との紐づけを考え始めている

## 2. 成果取りまとめの進捗報告 (作業部会の報告)

### アウトプット③

## 「中間支援の担い手とそのコミュニティ」に関する成果

- ◆ 実践を通じて中間支援機能を学び、機能を身につけた担い手が育成されている。
- ◆ 共生圏づくりに取り組む人たち同士がゆるやかに繋がり、交流ができる関係性ができている

担い手の強化

### <中間支援人材の育成>

- ・大学生インターンシップを活用した人材育成の実践（システム構築を目指す）
- ・若手の登用、OJT形式による人材育成

### <コミュニティ>

- ・中間支援主体同士の交流
- ・地域を超えた広域な連携
- ・全国的なつながり（slackの立ち上げ等）

### <意識・行動の変化>

#### 【当事者の変化】

- ・中間支援機能の価値の理解
- ・元々持っていた中間支援スタイルに、共生圏の考え方・環境分野との繋がりが追加

#### 【組織内の変化】

- ・自治体内での共有、他部署と連携しながら、中間支援機能を獲得しつつある

### 3. 今後の成果取りまとめ方向性（案）

## 今後の成果取りまとめ方向性（案）

ロジックモデルのアウトプット	成果とりまとめ（R8年度中目標）の方向性
<p>①</p> <p>地域循環共生圏のモデル事例 -地域プラットフォームの構築 -ローカルSDGs事業の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 共生圏づくりの考え方をインプットしたことにより、地域づくりが加速した理由の<u>言語化</u></li><li>• ローカルSDGs事業を生み出し続ける<u>仕組みのモデル化</u></li><li>• 「6つの資本」を援用し、ローカルSDGsを資本統合と好循環で評価</li></ul>
<p>②</p> <p>地域循環共生圏づくりにおいて有効な中間支援機能モデル</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 中間支援の4つの機能（変革促進、プロセス支援、資源連結、問題解決提示）のフレームを援用し、<u>地域で実践した中間支援</u>と、それによる<u>取組の成果（効果・生まれた変化）・プロセスを整理</u></li></ul>
<p>③</p> <p>地域循環共生圏の考え方を踏まえた中間支援の担い手とそのコミュニティ</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 中間支援の担い手育成の<u>マニュアル化</u></li><li>• 卒業団体も含めた全国・各地方での中間支援コミュニティの運用</li></ul>